

選考委員長講評

梅光学院大学 教授 樋口 紀子

今回は第二回ということで、この「女性いきいき大賞」がより社会に認知されたせいも、前回にましていろいろな分野の活動をしておられる団体からの応募がありました。応募された団体は45団体で、1次選考で11の団体に絞り、選考基準に基づきそれぞれの分野での優秀賞を選び、その中から最優秀賞を決定致しました。その選考基準は、いかに「いきいきと」活動しているか、そして、今後もより「いきいきと」活動していく可能性があるか」というところです。昨年、第一回目の大賞を受賞された「安岡ひまわりレディース」が、受賞を記念して地域のために講演会を開催されましたが、受賞をきっかけにより活動を広げて下さることこそがこの賞の目指すところです。それぞれの受賞団体の今後のますますのご活躍を期待しながら、受賞理由を述べたいと思います。



○嘉川子育て支援連絡組織“みらい”（最優秀賞）：子育て分野

子育ての活動に赤ちゃんからお年寄りまで多くの方々に関わっておられる点、この組織が地域のよりどころとなっている点、後継者がしっかり育っており、現在の活動だけではなく、この団体の名前のおり、将来にもつながっていくことのできる活動であることがよく理解できる点が評価されました。特に、中学生が赤ちゃんと接することで、「命の尊さ」を教えたいという使命感を持って活動しておられること、地域の中のいろいろな団体に関わり、地域で連携して活動を行っていることが今後の活動のあり方として、一つのモデルケースになるのではないかと思います。以上の点を総合的に判断した結果、今回の最優秀賞となりました。

○あいの会：くらしづくり分野

「がん」という誰もがかかる可能性のある病気に対して、経験者がその患者や家族に対してケアを行うということは、今後の医療活動の中で必要なものです。特に、拠点病院がない長門・萩地域で患者自らがこの活動を立ち上げ、試行錯誤しながら患者や家族のケアにとどまらず、がん検診への呼びかけなど予防の分野にまで活動を広げておられるその懸命さが評価されました。

○高齢社会をよくする下関女性の会(ホーモイ)：福祉分野

地域の高齢者を元気にしようとする活動を、同じ年代の方々が“いきいきと”とやっておられる点がまず目を引きました。特に、行政が高齢者対策としてすぐにでもやらなければならないことを、ボランティアとして、しかも地域の大学生も巻き込みながら活動しておられることが評価された点です。また、参考事例として他県から講演や事例発表の依頼があることは、山口県を発信として他の地域への波及効果が期待できるということで評価されました。

○美祢市生活改善実行グループ連絡協議会：地域活力向上分野

農家の女性たちが、ただ単に家業としている農作物を作って、既存のルートで販売するというのではなく、それを独自のルートで、しかも北海道から九州という幅広い範囲に宅配便で各家庭に届けているという積極的な活動が高い評価を受けました。また、最近では「我が家の一品料理」を持ち寄って検討し、それを商品化して販売していこうという新たな活動が広がっていることも評価された点です。美祢市の独自性をPRする活動にもなっていると思います。

最優秀賞(山口県知事賞)

嘉川子育て支援連絡組織“みらい”

代表者 山村 正子 (山口市)

活動の動機・目的

婦人会が昭和56年に地区の子育て支援の場として立ち上げたのが嘉川幼児学級で、子育て支援の先駆といえる。[私たちは健全で心豊かな「かがわっこ」育てをサポートします]を目的に子育てに関わっているいろんな組織が協力、手を結んで連絡組織を結成・協働活動をする中で多くの事業に取り組み、多世代交流を進めながら、地域の連携と教育力を高めていく。

活動の内容

① 「嘉川子ども館 しゅっぱっぱ」の管理運営

毎週火、水、金の3回と第3土曜日、10時から15時半(夏季は16時)まで開放。育児に関する相談援助や多世代交流を通して、子どもたちが安心して遊べる場所の提供と、母親たちの育児仲間づくり、子どもたちの交流の場を提供。0～3歳児のいる家庭にメンバーである母子保健推進員が案内チラシを配布、公民館だよりなどで参加を呼びかけている。スタッフは当番制で常駐。

② 生命の学習・赤ちゃんふれあい体験「川西ちびっこ大集合」

川西中2年生の授業の一環として、乳幼児とのふれあい体験を通して命の学習を実施。事前に保健師による学習を行い、お母さんたちとの協力を得て、ゲーム、リズム体操、手作りおもちゃを使つての遊びなど赤ちゃんとのふれあいタイムを過ごす。

③ 川西ネバーランド

中・高生ボランティアと幼児のふれあい。ボランティア意識向上のため、希望者を募って開催。

④ お父さんを巻き込んで、年2回子育て支援講座を開催。

⑤ 子育て支援情報誌「かがわっこひろば」発行。(3年見直し)

初めて親となる人、転勤などでこの地に住むことになった人たちに少しでも地域を知ってほしいために作成。内容は嘉川近郊の地図、身近な公園・遊び場、保育園紹介、育児相談の場・電話案内、身近な医療機関などを掲載。

⑥ みらい通信発行。地域の連合会、婦人会、老人会、他組織の協力を得て、夏祭りを開催。

これからめざしたいこと

- ・「しゅっぱっぱ」の開館日数増と、一時預かりを今後検討していく。
- ・赤ちゃんから中・高生、年配者まで、成長段階それぞれの場で、地域あげてフォロー育成していくことを継続していく。スタッフの資質向上のため、年4回のサポーターズ会議で勉強会と他施設の見学を行い、良い点を参考に活かしていきたい。
- ・コープの活動で食育、紙芝居などの遊びとの連携をはかり、幅を広げていきたい。



優秀賞(朝日新聞社 山口総局長賞)

美祢市生活改善実行グループ連絡協議会

代表者 大橋 つや子 (美祢市)

活動の動機、目的

昭和40年、美祢市内17の生活改善グループが連携して農家・農村の問題を解決するために、協議会を結成したのが始まり。「健康で住みよい環境づくりと、農家の良さを活かしたくらしの工夫、仲間づくりの輪をひろげよう」を活動目標に掲げ、常に地場産物や地域に根ざした活動を行い、過疎・高齢化する農村において住みよい地域づくりのために活動を行っている。

活動の内容

- ① 研修会等の開催によるエンパワーメントづくり
農業生産や流通、地産地消に関する技術研修、環境問題、女性の生き方など幅広い知識、技術を得る為の学習活動を実施。
- ② 地域産物の利活用と商品化
9つあるグループの内、自分たちが生産した農産物を使って加工する技術を活かし、加工品の商品化に取り組み、朝市や道の駅で販売。地域PRにつなげている。
- ③ 農産加工リーダーとして地域の味の伝承
農産加工技術をもった生活改善グループリーダーが味噌や豆腐づくり研修の指導者として活動を行うと同時に小学校や中学校からの要請で出前講座。そのうちの一つのグループは学校給食へ提供。
- ④ 全国に届くふるさと宅配便
全グループ員が生産技術や加工技術を通して、ふるさとの味を届ける宅配便事業を、平成11年から年2回(冬・夏便)実施。グループ員の手作りによる13~17品目を箱詰めし、お品書きを添えて、北海道から九州まで広く発送している。
- ⑤ 米の消費拡大と美祢市特産を使った料理等提案
米離れが進む中、消費拡大をめざし、美祢のブランド商品となっている「厚保くり」を使った「山菜栗おこわ」を創出。特産のほうれん草を使った「ほうれん草うどん」を地元業者と連携して創出するなど生活改善グループの活動として定着。

これからめざしたいこと

- ・「ふるさと宅配便」は年々輪が広がり、数量も増えてきており、作付けや天候状況による変更、苦労があるが、皆で話し合いながら手入れや対応を行っていききたい。これからも利用者に喜んで頂けるよう頑張っていきたい。
- ・会合の時は、「我が家の一品(我が家の伝統料理・漬物など)を持ち寄り、試食交流して地域の新たな特産品へとつないでいきたい。また、地域の中その他団体(食推、JA女性部)とも一緒になって取り組んでいきたい。



優秀賞 (yab 山口朝日放送賞)

高齢社会をよくする下関女性の会(ホーモイ)

代表者 田中 隆子 (下関市)

活動の動機、目的

高齢者の介護経験から大変さを実感し、これから進む高齢社会、すべての人が自立し、安心して生きられる市民社会をめざしたい。その為には市民が共に支えあえる組織が必要と発足。

少子高齢社会の現実をみつめ、すべての人が自立し、共に支えあい、安心して生きられる市民社会の創造をめざす。

活動の内容

- ① 介護予防のためのサロンを月1回(1月は除く)開催
リズム体操、健康講話、筋力トレーニング、レクリエーションなど。平成18年度から下関市立大学で、学生も毎回スタッフとして参加。多世代交流の場としても活気あるサロンとなっている。
- ② 学習・啓発活動
 - ・市社協と共催で、市民福祉講座を6講座開催
自殺防止と「いのちの電話」の活動について
災害時の心得～地域で家庭でできること
食情報のウソ・ホント～死ぬまで元気であるための食生活
近所のおばあちゃんがぼけた！みんなで支えんといけんねえ
介護保険制度および地域包括支援センターの働き
ワークショップ ケアプランを立てよう
 - ・総会や定例会における学習 テーマ～認知症を地域で支えあおう
 - ・08年度は会独自で講演会とシンポジウム開催予定
- ③ 団塊の世代よあつまれ！と題し、市社協と共催して、「熟年期のクラブ活動紹介」、『講演～「お元気だから活動する」ではありません。「活動するからお元気なのです」～』を開催。
- ④ 認知症を地域で支えあおう～市・市社協・家族の会と共催で講演会とシンポジウム開催。
- ⑤ 広報紙(ホーモイ通信)を年2回発行(市民福祉講座の内容紹介、講演内容報告、今後の予定など)

これからめざしたいこと

- ・高齢化率の増大する中、健康寿命を伸ばすためのサロンは急務であり、一層重要になると認識、地域福祉に力をいれていくため、各自治会ごとにサロンを開催し、地域の活性化をめざし今後も推進していく。
- ・講演とシンポジウムは今の問題をとりあげたテーマで開催し、予防の一助になるよう今後も推進していく。先進的な他県の事例を参考にしたい。
- ・他のグループとも手を取りあって、認知症予防のための講座を今後進めていきたい。あくまでも皆が「楽しく、笑って」をモットーに。



優秀賞(山口新聞社賞)

あいの会(女性がん患者の会)

代表者 沖村 恵子 (長門市)

活動の動機、目的

自分が患者になった時に感じた「自分に必要な情報のなさ」「心細さ」の解消の為に、「がん患者同士が交流を持ち心の支えとなりたい」「病気について勉強したり、情報提供の場を持ちたい」との思いから発足。

自分たちが抱えている問題を仲間のサポートを受けながら自分自身で解決あるいは受容していくことを目指す。その為に、①問題との付き合い方を学ぶ②安心していられる居場所作り③情報交換④社会に対しての働きかけをすすめて行く。

活動の内容

- ① 定例会を2ヶ月に1回開催し、専門家による勉強会と会員の交流を実施。
 - ・19年2月 「乳がんの化学療法・ホルモン療法」
 - ・19年4月 「上下肢浮腫のリンパマッサージの実際」
 - ・19年6月 「夏のダイエットメニュー試食会」
 - ・19年8月 「乳がんを中心とした下着相談会」
 - ・19年10月 「知っておけば怖くない 胃がん 大腸がん」
- ② 総会を開催し、年間活動報告と年度計画提案を行う。(毎年2月)
- ③ コンサートによってリラックスタイムを持つ。(無理に頑張ることをとりあえずやめましよう)～長門総合病院ロビーにおいて病院コンサート開催 (19年11月～)
- ④ シンポジウムを開催し、様々な生き方、考え方があることを伝える。
(20年2月 「がん患者の生き方について」)
- ⑤ 会報を年1回発行して勉強会で学んだ情報の共有化をはかる。また啓蒙活動として、定例会をポスター、地元新聞等で知らせている。
- ⑥ 会員の乳がん自己検診の実施と身近な方への検診受信の声かけ運動への拡大をはかる。
- ⑦ 山口県下の乳がん患者会との交流を持ち、情報交換を行う。
- ⑧ 地元の医療機関の医療スタッフとの連携を持ち、会員の納得いく治療をめざす。

これからめざしたいこと

- ・「あいの会」が患者と医療者の間に入り、患者側の立場から自分らしい生き方を選択できるようなお手伝いをしたいと思うので、今後も活動を継続していく。
- ・がん医療の地域格差は存在するが、がんになっても今住んでいる家で安心して最後まで暮らせるように患者会としてお手伝いしたいと思う。
- ・長門市が地盤なので、まずは地元が元気になることが大切。長門から発信していきたい。



コープやまぐち奨励賞

「すえ おはなしの会」

代表者 柴田 千代 (山陽小野田市)

活動の動機、目的

子育ての経験を地域の幅広い子供たちへの支援につなげたいとの思い、子育て終了後の時間の隙間を使うことができたらとの思いをもった仲間6人が集まり結成。子育てはもちろん、地域活性、文化向上を目的とする。

活動の内容

- ① 毎月1回児童館での「本の読み聞かせ」と「紙芝居」を3人体制で実施。
- ② 年間10回程度人形劇の出張公演（幼稚園、小学校、図書館行事など他地域でも開催）
- ③ 老人施設、障害者施設へ慰問
- ④ 小野田市立図書館の「人形劇まつり」や県の「人形劇フェスティバル」に参加。他団体の作品を観るよい勉強の場となっている。
- ⑤ 使用する人形や紙芝居は手作りが基本。いらなくなった布地や道具を持ち寄り、活動の大きな糧となっている子どもたちの笑顔を思い浮かべながら、個人個人が仕事の合間を縫って手分けして作り上げる。イベント前は夜に集合して練習を重ねる。

これからめざしたいこと

- ・自分たちで立ち上げ、会費という財源を持ち寄った自主自発的活動なので、「自分たちにできる自分たちらしい活動をしたいね」を合言葉に活動を続けていく。普通のお母さんが自分たちらしい人形劇をしていく、又お母さんが我が子に読み聞かせるような自分たちらしさを大切にしていきたい。
- ・子どもたちがいい本にめぐり合えることの大切さを実感しているし、夢を見つけられるそのきっかけになればと思っている。
- ・結成19年を迎え、年数を重ねるに従い、地域の期待にも応えられるようできるだけ研修会にでかけて、勉強を重ねていく。



コープやまぐち奨励賞

特定非営利活動法人 エルマーの会

代表者 佐原 いづみ (岩国市)

活動の動機、目的

発達障害児を持つ親の不安から会が誕生。できることなら、この子どもたちが親亡き後も、生活相談員さんや就労指導員さんの常駐する就業の場とグループホームという居住地が、確保できることを願い、継続的支援体制の確立を目的とする。

活動内容

① 焼き菓子工房

就労支援の基本の場として県の食品衛生許可を受け、本格稼動を始めた。業者になることで、子どもたちの働く意欲につなぐ。東京よりプロの先生をお呼びし、直接指導を仰いでいる。土曜夜市や県総合庁舎内、マリフフェスタ等で販売。

② 講演会の開催

子どもたちが地域社会で生きていく上で、親以外に理解していただくサポーターが増えることを願って開催。

③ 中高生の野外活動

不定期だが、花見、映画鑑賞、山登りを通して親以外の人と接する機会をもつ。又乗り物の乗り継ぎや切符の購入などができるよう大学生や院生の協力を得て実施。

④ 月2回市からの依頼で公園掃除実施。商店街の路上ガムはがしボランティアを他団体と実施。

⑤ 会報発行

4ヶ月に1回のペースで発行。環境の変化が苦手な子どもたちへの対策を知らせる「こちら相談室」コーナーや活動報告、会員・ボランティア・賛助会員の募集を掲載。

⑥ 他に空想民族音楽SAYAN コンサート開催、パソコン教室、家族単位での農作業体験と収穫を開催。

これからめざしたいこと

- ・今後も子どもたちの就労支援に力を入れていきたい。お菓子工房は子どもたちにとって、プロに習うということで、砂粒のような小ささだが、「いつかプロになれる」と漠としたものが生まれてきたようだ。
- ・また、家庭でよりよい時間を過ごす為に、保護者向けのペアレントトレーニング講座・全5回（県障害支援課主催）へ会員を派遣。技術と内面での成長をめざしていく。
- ・ボランティアも少しずつ増えている現状。今後も知らせ、増やしていきたい。



コープやまぐち奨励賞

山口県要約筆記やまぐち

代表者 門田 美和子 (防府市)

活動の動機、目的

聴覚障害者の福祉の増進に努めつつ、中途失聴・難聴者の社会参加・自立を支援するため、話し言葉を書き言葉（文字）にして伝えていく。今後ますます高齢者が増加することが予想され、「加齢による聴覚障害者には補聴器」と短絡に考えられるが、補聴器は聞きたい人の声だけを聞き取ることはできない。書くことで音による情報をきちんと伝えていく。また、聞こえる人と一緒に学びたいと願う聴覚障害の子どもたちへの教育支援体制づくりもめざしていく。

活動内容

- ① 県内13団体が所属し、依頼を受けた各サークルが中途失聴者・難聴者のために、話の内容を要約し、書いたり、パソコン入力して話の内容を文字にして伝えていく。
 - ・会議・講習会でのOHP・パソコンによる通訳（二人一組となり、チーム4人制で実施）
 - ・学校・病院などでのノートテイク（紙などに書いて伝達）通訳
- ② まだ社会的認知度が低い現状をふまえ、多くの人に要約筆記を知ってもらうための普及活動に取り組む。学校のPTA、公民館行事に出向いてPR活動、PR誌を作成配布。
- ③ 要約筆記者の育成と養成
利用者にきちんと伝わる要約筆記通訳ができるよう、要約筆記奉仕員証取得者の資質向上のための研修を県内各地で実施。要約筆記者が大幅に不足しているため、筆記者0の各市町を関係団体と共に訪問し、養成事業が実施できるようお願いしている。
- ④ 利用者個人の派遣依頼では、プライバシーに関するものがほとんどで、守秘義務を守ることが鉄則。常に自己検証と同時にサークルの仲間と一緒に研修しながら研鑽に努める。
- ⑤ 4年前、一人の聴覚障害学生の願い（聞こえる人と同じ学校で学びたい、大学にいききたい）を実現すべく、短大で講義保障のための要約筆記通訳を実施。優秀な成績で卒業、社会人として勤めている実例から教育支援体制づくりを関係団体の協力を頂き進めているところ。
- ⑥ 中国ブロックや全国の研修会に積極的に参加。本年6月には全国要約筆記研究集会を初めて山口県で開催予定。

これからめざしたいこと

- ・中途失聴者の方たちに「心耳（しんじ）に響く要約筆記」を合言葉に、適確に筆記ができるようにこれからも自分も磨き、研鑽を積んでいきたい。
- ・聴覚に障害があっても、「聞こえる人と一緒に、当たり前にしてすべてのことができる社会」をめざし、「要約筆記は黒子である」という言葉を心に刻みながらこれからも前進していきたい。



コープやまぐち組合員奨励賞

育児ボランティア ほほえみ

代表者 松原 玲子 (下関市)

活動の動機、目的

子ども家庭支援センターで双子を育児中のお母さんたちから悩みを分かち合える場がほしいと聞き、「下関ツインズファミリー」を立ち上げたことがきっかけ。人手が足りないことから一般に呼びかけボランティアグループを結成。シニア世代が中心の子育て支援。在宅で子育て中の母子の育児不安解消や育児力・生活感覚を身につけてほしいとの願いで多角的な活動の展開をめざす。

活動内容

- ① 子育てサロンの開催
 - ・ 暮らし術サロン (毎月第1水曜日) 午前中
ノンプログラムが原則。私たちの世代が子どもたちにバトンタッチし忘れた、暮らし術を伝える。(育児相談、衣類の繕い、今日の献立、レンジの活用法など)
 - ・ くつろぎ広場サロン (毎月第3水曜日)
うた (童謡)、手遊び、親子体操、絵本読み聞かせなどと、自由にフリートークを。
2時間だけでも、母親が「ぼんやり」「ほっと」する時間にしてあげたい。
- ② 下関ツインズ・ファミリーの支援 (毎月第3月曜日開催)
 - ・ フリートークやフリーマーケット (随時開催・双子の衣類、道具等を譲りあう) 実施。
 - ・ 手作り運動会も今年で7回目になり、ツインズ・ファミリー出身の親が立案、運営。
市内産婦人科にパンフをおいていることから、出産前に様子を見にこられたり、市外参加もある。
- ③ 下関市役所・一階市民サービス課「キッズスペース」で来庁者のための一時託児
二人一組の当番制で実施、毎週月曜日午前中に開催、乳幼児連れの人に好評。
- ④ グランマの絵本の森 (毎月1回開催)
絵本に関心のあるシニアが集い、シニア同士での絵本の読みあいと感想交流、情報交換を行う。
- ⑤ テーマグループとして登録

これからめざしたいこと

「遠くの孫より地域の孫支援・親育ち・子育て応援団」をスローガンに、現状維持していくことと、暮らし術サロンなどで好評だった簡単料理をお母さんたちに教えたい。指導者ではなく、一緒に歩いていく伴走者という姿勢で地域の将来を担う親や子に暮らし術を伝えていきたい。



コープやまぐち組合員奨励賞 ひまわりの会

代表者 生野 美輪 (防府市)

活動の動機、目的

私たちは、同時期に引っ越してきた同年代の子を持つ親同士です。近隣同士の親睦を深めるために2000年にテーマグループのくらし見直し分野に登録しました。商品学習、手作りおやつ、家庭菜園等、毎年少しずつ活動を広げてきました。子どもの成長に合わせ、子どもの遊ぶ環境を作り、近隣皆で、昔のように地域で地域の子を育てることを目標に子育て分野に変更し、現在も活動しています。

活動内容

- ① 春・秋のバーベキューはお父さんも加わって家族ぐるみのおつきあいです。夏の川遊び・花火、冬はクリスマス会など、毎年季節ごとに子どもが楽しめることを計画、皆で楽しく実行しています。
- ② 子ども会、地域の行事(マラソンなど)にも参加しています。
- ③ その他親同士で、昼食を交えて情報交換したり、又、お互いに上の子の行事や兄弟の病院通院の時、預かったり、預けたりして、皆で助け合って子育てをしています。

これからめざしたいこと

子どもが小さい時は良かったのですが、子どもの習い事や他の行事への参加等で、皆が集まらなかつたり、上の子と下の子の年齢に差があつたり、なかなか親子一緒にイベントができなくなってきましたが、子どもが楽しめることを今後も皆で計画、実行していきたいです。



コープやまぐち組合員奨励賞 モチーフ

代表者 田村 和代 (光市)

活動の動機、目的

原爆被爆者の方が山口県に多勢おられることを知り、その方たちにモチーフをつないだ ひざ掛けを贈る活動があるとのことで、自分たちにもできるボランティアだと思い、グループを作った。

寒い冬を暖かく過ごしてほしいとの願いで贈り続けていく。

活動内容

- ① 毎年9月から翌年6月まで各自モチーフを編み、35枚をつなげてひざ掛けにしている。
ひざ掛けにむかない毛糸もあるので、数年前からはマフラーや肩掛けにも編んでいる。
- ② 夏は山口市商店街の「折鶴かざり」や「山口のヒロシマデー」へ向けての折鶴を折る活動もしている。
- ③ 12月初旬にゆだ苑と福祉生協さんコープにひざ掛けやマフラーを贈呈させていただいている。
- ④ 毛糸を提供して下さる方や、かせの毛糸をきちんと編みやすい玉巻にして下さる方等、皆さんの協力でこの活動が続けていける。
- ⑤ 平和分野で形成しているテーマグループ同士が集まって、平和ネットワークを形成し、今年度から、「ニットカフェ」という形で、誰でも自由に参加できるよう、編み方講習会の回数を増やした。10月は毎週火曜日、11月は毎週木曜日にお茶を飲みながら開催。ひざ掛けに添えるメッセージカードや折り紙飾りもメンバーで作成。

これからめざしたいこと

新聞に贈呈式の内容が掲載されたことで、訪ねて下さった方もあり、うれしかった。継続することの大切さを実感した。今後もこの活動が被爆者のことや平和のことを考える意味でのきっかけ作りとなることができればうれしい。もっとこの活動に関わってくれる人が増えるよう広げていきたい。



コープやまぐち組合員奨励賞

チューリップグループ

代表者 長廣 明子 (下関市)

活動の動機、目的

代表者自身の家族が倒れ、リハビリをしている時に、「後天的脳障害の方のリハビリサークル」を立ち上げた。ピアノ教師の特性を活かし、「音」を使っての声だしリハビリから始め、医療専門家の方たちと勉強会等を経て、試行錯誤しながら何とか系統立てた。多くの障害者の方たちの手助けを目的に活動している。

活動内容

音を使ってのセラピー実施。毎月定例会で次月の計画を立てていく。リハビリサークルへ会員を派遣、援助を行っている。

- ① 身体障害者の方たちの援助
- ② 高齢者の方たちの援助

ひきこもりを防ぐため、いすに座ったままでできる体操やハンドベルなどの演奏にも取り組み、文化祭での演奏という目標を持ってみんなの力を結集していく。

- ③ 自閉症児・者の援助
- ④ ダウン症児の援助

これからめざしたいこと

1時間という短い時間だが、参加者にとって楽しい時間を今後も提供していきたい。高齢者・障害者を含むすべての障害福祉に関わっていきたい。

